

雲過ぎて黄菅の花の濡れてをる

山田真砂年

〔俳壇〕十月号

高山や山地の草原に、淡黄色のユリに似た花を黄菅  
または夕菅と呼ぶ。夕方に開花し、翌朝にはしぼむの  
で夕菅の名がある。広い草原に大きな影が移動してく  
る。雲が草原を覆いながら、影は黄菅の花を撫でて緩  
やかに流れていく。光が戻った場所は細かい水滴が光  
る。句から大きな景が映像のように見えてくる。そし  
て静かに時間の流れが感じられ落ち着いた気分を与え  
てくれる。